

総合交通メールマガジン

第77号

平成27年3月27日発行

発行元：国土交通省 総合政策局

総務課（総合交通体系グループ）

目次

総合交通メールマガジンとは

Topics

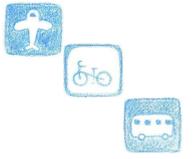
- ◆産官学民連携による「まちなかカート」を活用した歩きたくなるまちづくり
(富山大学大学院医学薬学研究部地域看護学講座 准教授 中林美奈子)
- ◆暮らしやすいまちづくりに向けた取り組み
(大崎市 市民協働推進部 まちづくり推進課 佐藤敬美)
- ◆被災地カーシェアリング活動報告（パート2）
(一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事 吉澤武彦)

総合交通体系グループだより

- ◆『地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』～ いつでもご質問に対応致します。～
(国土交通省 総合政策局 総務課)

Information

- ◆総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！
- ◆地域の取り組み 及び イベント案内 募集！！
- ◆～受付窓口の変更がありましたらご連絡ください～



総合交通メールマガジンとは

総合交通メールマガジンは、交通基盤整備や地域交通に関する最新の取り組みを幅広く紹介することを目的として、月一回を目処に発行しているメールマガジンであり、主な購読者は都道府県、市町村等の交通施策担当者となっております。

当メールマガジンで紹介させていただく記事については、執筆者が任意の協力のもとで作成したものであり、成果を広く共有する観点から、二次的利用も可能な形式で掲載しております。

《総合交通メールマガジンのバックナンバーはこちら↓》

http://www.ml.it.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html



Topics

◆産官学民連携による「まちなかカート」を活用した歩きたくなるまちづくり

(富山大学大学院医学薬学研究部地域看護学講座 准教授 中林美奈子)

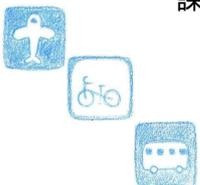
富山大学歩行圏コミュニティ研究会は、富山大学の医学部看護学科、芸術文化学部、人間発達科学部、工学部、産学連携部門の教職員が中心となり、富山市、富山市星井町地区長寿会、地元企業などのメンバーで構成されたプロジェクトチームです。平成23年10月から、富山市で歩行補助車「まちなかカート」を活用した歩きたくなるまちづくりに取り組んでいます。

これまでの主な取組としては、

- ・ 足腰が弱くなってきた高齢者でも楽に外を歩くことができるように、利用者の意見を取り入れながら産学が連携して歩行補助車を開発
- ・ 足腰の弱りが気になる高齢者の生活を助けるために、高齢者にカートを提供
- ・ コミュニティ全体で歩行圏コミュニティの実現に必要な行動を起こしていくプロセスを支援するため、持続性の高い楽しいポピュレーションアプローチ（歩くことを主体とした楽しいイベント、まちなかカートステーションの設置等）を実施

です。その結果、高齢者の日常生活を助け、生活の質の向上に寄与するとともに、まちなかでは、カートを使って商店街で買い物を楽しむ高齢者や若い親子連れの姿が見かけられるようになりました。

歩行圏コミュニティの実現という面では道半ばですが、コミュニティ全体に歩くことを積極的にとらえる機運が高まってきていると感じています。まちなかカートの製品化など課題も多いですが、試行錯誤を積み重ね、富山市で地道に歩行圏コミュニティを実現して





いきたいと考えています。

《記事はこちら↓》

<http://www.ml.it.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1503nakabayashi.pdf>

《富山大学歩行圏コミュニティ研究会のウェブサイトはこちらから↓》

<http://hokoken.org/>

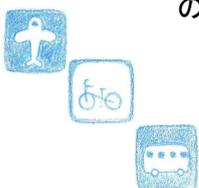
◆暮らしやすいまちづくりに向けた取り組み

(大崎市 市民協働推進部 まちづくり推進課 佐藤敬美)

宮城県大崎市は、宮城県の北西部に位置する古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町及び田尻町の1市6町が合併し誕生しました。人口約13万5千人、面積約800km²と県内第3の都市となる大崎市には、産業、学術、文化、医療などの都市機能とともに、東北新幹線や東北自動車道、東北本線、陸羽東線、路線バス、国道4号などの高規格の交通・輸送機関が整備され、東北地方の縦軸と横軸を結ぶ結節点となっています。

本市のバス路線は、「大崎市公共交通再編の基本方針・整備方針」に基づき、本市と周辺市町村を結ぶ「広域路線」、市内各地域と古川地域中心部を結ぶ「幹線路線」、さらに各地域内での日常生活路線である「地域内路線」のネットワークにより、効率的・効果的な交通体系の確立に向け再編を進めています。「広域路線」、「幹線路線」、「地域内路線」の3つの交通ネットワークの維持・確保に向けた取り組みとしては、市民や事業者等を対象とした講演会やワールドカフェ会議、これからの公共交通を守る子ども達への交通教育を行い、公共交通離れを防ぐためのモビリティマネジメント事業を展開しています。また、利用者が多いほど公共交通のサービス水準が向上することから、未利用者の促進を図りながらバスやタクシーなどサービスを提供する側の後継者育成も大切にしています。

また、地域内公共交通として、乗り合いタクシーやジャンボタクシーを運行しており、合併前の旧市町の区域内を回る生活路線として位置づけています。それぞれの地域の中心地にある商店や医院、銀行へ、あるいは最寄りのJR駅、中心地域の古川への幹線バス路線等への乗り継ぎを目的としています。地域が運営主体となり、住民で組織する運営委員会が住民のニーズにあった運行計画を策定します。「地域の交通を地域で創り、守ること」へ自ら参画することで、地域への愛情や役立ちを感じていただけたら、自己実現的なベネフィット（便益）に繋がり、三位一体型の交通システムが確立されるものと思われれます。協働のまちづくりを推進するうえで重要な役割を担い、持続的に運行される路線になるものと期待しています。





《記事はこちらから↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1503oosaki.pdf>

《大崎市役所のウェブサイトはこちらから↓》

<http://www.city.osaki.miyagi.jp/>

◆被災地カーシェアリング活動報告（パート2）

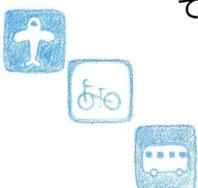
（一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事 吉澤武彦）

東日本大震災発生により約6万台の車が流された宮城県石巻市では、当時圧倒的に車が足りない状況であり、私たちは全国から寄付いただいた車をグループ単位にどんどん貸していきました。その後、利用者自身でルールを決めていただき、その場に合った形で使っていただいています。その自由さが功を奏し、送迎活動などに発展するケースも生まれました。私たちのカーシェアリングの特徴は、システムを中心に「人間関係」を据えていることであり、「コミュニティ・カーシェアリング」と呼ぶようにしています。当該カーシェアリングの基本的な仕組みは、以下の通りです。

- ・ 車を利用したい方々にグループを組んでいただき、協会名義の車を貸し出します。
- ・ 責任者を一人決めていただき、その方が協会の正会員になり、それ以外の利用者は準会員として、正会員を中心にグループで車を管理いただきます。
- ・ 車にかかる経費（燃料代・保険料・車検代・税金・修理代等）については、利用者の方々にお支払いいただきます。（正会員が窓口となって支払い）
- ・ 車に乗る際には、運転日誌を記載いただきます。
- ・ 車の活用方法、利用予約、経費のための積み立て等ルールは基本的に正会員を中心に利用者同士で自由にルールを作ってください、その地域に合った形で行っていただきます。
- ・ 車を返却する場合は、車検を半年以上残った状態で返却していただきます。

これまでは全国から寄付いただいた車を集め、この石巻に必要な車の活用を被災地支援として取り組んでまいりました。これからは、地元で車を集め、地域で困っていらっしゃる方のサポートや地域課題を解決するために活用していく平時の取り組みを今まで以上に意識して進めてまいります。

私たちの目的は、「石巻に雛形を作る」ということです。石巻でできたモデルをできるだけ他の地域で展開しやすい形にまで作りこむことが私たちの役割だと思っています。そして、そこでできた雛形をもとに、他の地域にノウハウを伝え、貢献することこそが今まで





様々な支援をいただいていた私達が行うべきご恩返しであり、目指す復興の形であると考えております。まだまだ発展途上ではありますが、何かみなさまの地域の政策にお役に立てることがございましたら、お声掛け掛けいただければと思います。

《記事はこちらから↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1503carshare.pdf>

《一般社団法人 日本カーシェアリング協会のウェブサイトはこちらから↓》

<http://www.japan-csa.org/>



総合交通体系グループだより

◆『地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』～ いつでもご質問に対応致します。～

(国土交通省 総合政策局 総務課)

国土交通省 総合政策局 総務課(総合交通体系)では、『地域のモビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』を発刊しています。

『地域のモビリティ確保の知恵袋2012 ～災害時も考慮した「転ばぬ先の杖」～』を地域における事前の取り組みに役立てて頂くために、東日本大震災後の災害に備えた取り組み事例等を調査し、平常時から災害時に備えた地域における取り組みの実践に資する工夫・ノウハウをとりまとめたものです。

ご質問など御座いましたら、いつでも対応致します。

《「地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～」はこちらから↓》

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_tk_000038.html

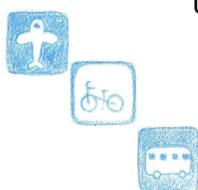


Information

◆総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

総合交通メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえて内容を充実させていきたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなど、どのようなことでも構いませんので、ご意見等頂けると幸いです。様式、送付先については、下記URLをご利用下さい。

URL: <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/iken-merumaga.xls>





引き続き、メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方については、送信先の変更を申請下さい。なお、変更内容については、以下までお願いします。

E-mail : hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp

◆地域の取り組み 及び イベント案内 募集！！

当課では、情報提供頂いた取り組みをメールマガジンで紹介することにより、各地域でノウハウ等の情報共有・情報交換ができればと考えており、総合的な交通施策の取り組みについて情報提供頂ける自治体等を募集しています。自薦・他薦は問いませんので、お気軽にご連絡下さい。更に、イベント案内について、主催者でも結構ですし、耳より情報でも結構です。勉強会や講演会、セミナー等ご紹介頂ければ、当メールマガジンにて案内をさせていただきます。

(情報提供はこちらまで hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp)

【情報提供頂く内容】

例えば、

- ・ 低炭素社会の実現に向けモビリティのあり方を見直す取り組み（交通の再編等）
- ・ 交通の改善により地域活性化を図る取り組み など

※ これまでに、推薦頂いたものも含めて76件の取り組みを紹介させて頂きました。

バックナンバー一覧：

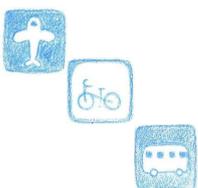
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html

◆受付窓口の変更がありましたらご連絡ください。

人事異動等により、メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方については、送信先の変更をご連絡願います。なお、他部署でも楽しんで頂けるよう努めて参りますので、引き続きのご購読も歓迎いたします。（連絡先の追加でも結構です）

なお、変更内容については、下記連絡先までお願いします。

E-mail : hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp





【問い合わせ先】

国土交通省 総合政策局 総務課（総合交通体系グループ） 中川 敏正

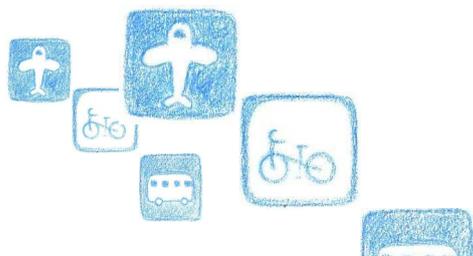
TEL：03-5253-8111（内線53-113）

FAX：03-5253-1675

E-mail：hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp

URL：<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/index.html>

※ 総合交通メールマガジンのメールアドレスが変わりました。



総合交通メールマガジン

第77号

平成27年3月27日発行

発行元：国土交通省 総合政策局

総務課（総合交通体系グループ）

目次

総合交通メールマガジンとは

Topics

- ◆産官学民連携による「まちなかカート」を活用した歩きたくなるまちづくり
(富山大学大学院医学薬学研究部地域看護学講座 准教授 中林美奈子)
- ◆暮らしやすいまちづくりに向けた取り組み
(大崎市 市民協働推進部 まちづくり推進課 佐藤敬美)
- ◆被災地カーシェアリング活動報告（パート2）
(一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事 吉澤武彦)

総合交通体系グループだより

- ◆『地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』～ いつでもご質問に対応致します。～
(国土交通省 総合政策局 総務課)

Information

- ◆総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！
- ◆地域の取り組み 及び イベント案内 募集！！
- ◆～受付窓口の変更がありましたらご連絡ください～



総合交通メールマガジンとは

総合交通メールマガジンは、交通基盤整備や地域交通に関する最新の取り組みを幅広く紹介することを目的として、月一回を目処に発行しているメールマガジンであり、主な購読者は都道府県、市町村等の交通施策担当者となっております。

当メールマガジンで紹介させていただく記事については、執筆者が任意の協力のもとで作成したものであり、成果を広く共有する観点から、二次的利用も可能な形式で掲載しております。

《総合交通メールマガジンのバックナンバーはこちら↓》

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html



Topics

◆産官学民連携による「まちなかカート」を活用した歩きたくなるまちづくり

(富山大学大学院医学薬学研究部地域看護学講座 准教授 中林美奈子)

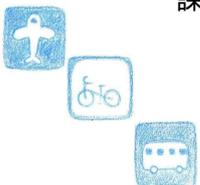
富山大学歩行圏コミュニティ研究会は、富山大学の医学部看護学科、芸術文化学部、人間発達科学部、工学部、産学連携部門の教職員が中心となり、富山市、富山市星井町地区長寿会、地元企業などのメンバーで構成されたプロジェクトチームです。平成23年10月から、富山市で歩行補助車「まちなかカート」を活用した歩きたくなるまちづくりに取り組んでいます。

これまでの主な取組としては、

- ・ 足腰が弱くなってきた高齢者でも楽に外を歩くことができるように、利用者の意見を取り入れながら産学が連携して歩行補助車を開発
- ・ 足腰の弱りが気になる高齢者の生活を助けるために、高齢者にカートを提供
- ・ コミュニティ全体で歩行圏コミュニティの実現に必要な行動を起こしていくプロセスを支援するため、持続性の高い楽しいポピュレーションアプローチ（歩くことを主体とした楽しいイベント、まちなかカートステーションの設置等）を実施

です。その結果、高齢者の日常生活を助け、生活の質の向上に寄与するとともに、まちなかでは、カートを使って商店街で買い物を楽しむ高齢者や若い親子連れの姿が見かけられるようになりました。

歩行圏コミュニティの実現という面では道半ばですが、コミュニティ全体に歩くことを積極的にとらえる機運が高まってきていると感じています。まちなかカートの製品化など課題も多いですが、試行錯誤を積み重ね、富山市で地道に歩行圏コミュニティを実現して





いきたいと考えています。

《記事はこちら↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1503nakabayashi.pdf>

《富山大学歩行圏コミュニティ研究会のウェブサイトはこちらから↓》

<http://hokoken.org/>

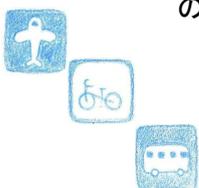
◆暮らしやすいまちづくりに向けた取り組み

(大崎市 市民協働推進部 まちづくり推進課 佐藤敬美)

宮城県大崎市は、宮城県の北西部に位置する古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町及び田尻町の1市6町が合併し誕生しました。人口約13万5千人、面積約800km²と県内第3の都市となる大崎市には、産業、学術、文化、医療などの都市機能とともに、東北新幹線や東北自動車道、東北本線、陸羽東線、路線バス、国道4号などの高規格の交通・輸送機関が整備され、東北地方の縦軸と横軸を結ぶ結節点となっています。

本市のバス路線は、「大崎市公共交通再編の基本方針・整備方針」に基づき、本市と周辺市町村を結ぶ「広域路線」、市内各地域と古川地域中心部を結ぶ「幹線路線」、さらに各地域内での日常生活路線である「地域内路線」のネットワークにより、効率的・効果的な交通体系の確立に向け再編を進めています。「広域路線」、「幹線路線」、「地域内路線」の3つの交通ネットワークの維持・確保に向けた取り組みとしては、市民や事業者等を対象とした講演会やワールドカフェ会議、これからの公共交通を守る子ども達への交通教育を行い、公共交通離れを防ぐためのモビリティマネジメント事業を展開しています。また、利用者が多いほど公共交通のサービス水準が向上することから、未利用者の促進を図りながらバスやタクシーなどサービスを提供する側の後継者育成も大切にしています。

また、地域内公共交通として、乗り合いタクシーやジャンボタクシーを運行しており、合併前の旧市町の区域内を回る生活路線として位置づけています。それぞれの地域の中心地にある商店や医院、銀行へ、あるいは最寄りのJR駅、中心地域の古川への幹線バス路線等への乗り継ぎを目的としています。地域が運営主体となり、住民で組織する運営委員会が住民のニーズにあった運行計画を策定します。「地域の交通を地域で創り、守ること」へ自ら参画することで、地域への愛情や役立ちを感じていただけたら、自己実現的なベネフィット（便益）に繋がり、三位一体型の交通システムが確立されるものと思われれます。協働のまちづくりを推進するうえで重要な役割を担い、持続的に運行される路線になるものと期待しています。





《記事はこちらから↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1503oosaki.pdf>

《大崎市役所のウェブサイトはこちらから↓》

<http://www.city.osaki.miyagi.jp/>

◆被災地カーシェアリング活動報告（パート2）

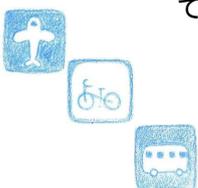
（一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事 吉澤武彦）

東日本大震災発生により約6万台の車が流された宮城県石巻市では、当時圧倒的に車が足りない状況であり、私たちは全国から寄付いただいた車をグループ単位にどんどん貸していきました。その後、利用者自身でルールを決めていただき、その場に合った形で使っていただいています。その自由さが功を奏し、送迎活動などに発展するケースも生まれました。私たちのカーシェアリングの特徴は、システムを中心に「人間関係」を据えていることであり、「コミュニティ・カーシェアリング」と呼ぶようにしています。当該カーシェアリングの基本的な仕組みは、以下の通りです。

- ・ 車を利用したい方々にグループを組んでいただき、協会名義の車を貸し出します。
- ・ 責任者を一人決めていただき、その方が協会の正会員になり、それ以外の利用者は準会員として、正会員を中心にグループで車を管理いただきます。
- ・ 車にかかる経費（燃料代・保険料・車検代・税金・修理代等）については、利用者の方々にお支払いいただきます。（正会員が窓口となって支払い）
- ・ 車に乗る際には、運転日誌を記載いただきます。
- ・ 車の活用方法、利用予約、経費のための積み立て等ルールは基本的に正会員を中心に利用者同士で自由にルールを作ってください、その地域に合った形で行っていただきます。
- ・ 車を返却する場合は、車検を半年以上残った状態で返却していただきます。

これまでは全国から寄付いただいた車を集め、この石巻に必要な車の活用を被災地支援として取り組んでまいりました。これからは、地元で車を集め、地域で困っていらっしゃる方のサポートや地域課題を解決するために活用していく平時の取り組みを今まで以上に意識して進めてまいります。

私たちの目的は、「石巻に雛形を作る」ということです。石巻でできたモデルをできるだけ他の地域で展開しやすい形にまで作りこむことが私たちの役割だと思っています。そして、そこでできた雛形をもとに、他の地域にノウハウを伝え、貢献することこそが今まで





様々な支援をいただいていた私達が行うべきご恩返しであり、目指す復興の形であると考えております。まだまだ発展途上ではありますが、何かみなさまの地域の政策にお役に立てることがございましたら、お声掛け掛けいただければと思います。

《記事はこちらから↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1503carshare.pdf>

《一般社団法人 日本カーシェアリング協会のウェブサイトはこちらから↓》

<http://www.japan-csa.org/>



総合交通体系グループだより

◆『地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』～ いつでもご質問に対応致します。～

(国土交通省 総合政策局 総務課)

国土交通省 総合政策局 総務課(総合交通体系)では、『地域のモビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』を発刊しています。

『地域のモビリティ確保の知恵袋2012 ～災害時も考慮した「転ばぬ先の杖」～』を地域における事前の取り組みに役立てて頂くために、東日本大震災後の災害に備えた取り組み事例等を調査し、平常時から災害時に備えた地域における取り組みの実践に資する工夫・ノウハウをとりまとめたものです。

ご質問など御座いましたら、いつでも対応致します。

《「地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～」はこちらから↓》

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_tk_000038.html

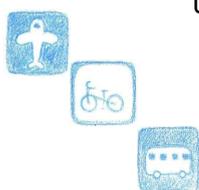


Information

◆総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

総合交通メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえて内容を充実させていきたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなど、どのようなことでも構いませんので、ご意見等頂けると幸いです。様式、送付先については、下記URLをご利用下さい。

URL: <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/iken-merumaga.xls>





引き続き、メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方については、送信先の変更を申請下さい。なお、変更内容については、以下までお願いします。

E-mail : hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp

◆地域の取り組み 及び イベント案内 募集！！

当課では、情報提供頂いた取り組みをメールマガジンで紹介することにより、各地域でノウハウ等の情報共有・情報交換ができればと考えており、総合的な交通施策の取り組みについて情報提供頂ける自治体等を募集しています。自薦・他薦は問いませんので、お気軽にご連絡下さい。更に、イベント案内について、主催者でも結構ですし、耳より情報でも結構です。勉強会や講演会、セミナー等ご紹介頂ければ、当メールマガジンにて案内をさせていただきます。

(情報提供はこちらまで hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp)

【情報提供頂く内容】

例えば、

- ・ 低炭素社会の実現に向けモビリティのあり方を見直す取り組み（交通の再編等）
- ・ 交通の改善により地域活性化を図る取り組み など

※ これまでに、推薦頂いたものも含めて76件の取り組みを紹介させて頂きました。

バックナンバー一覧：

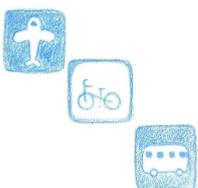
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html

◆受付窓口の変更がありましたらご連絡ください。

人事異動等により、メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方については、送信先の変更をご連絡願います。なお、他部署でも楽しんで頂けるよう努めて参りますので、引き続きのご購読も歓迎いたします。（連絡先の追加でも結構です）

なお、変更内容については、下記連絡先までお願いします。

E-mail : hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp





【問い合わせ先】

国土交通省 総合政策局 総務課（総合交通体系グループ） 中川 敏正

TEL：03-5253-8111（内線53-113）

FAX：03-5253-1675

E-mail：hqt-soukou-mm@ml.mlit.go.jp

URL：<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/index.html>

※ 総合交通メールマガジンのメールアドレスが変わりました。

